

平成21年度病害虫発生予察注意報第1号

平成21年7月29日

発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物 : 水稻
- 2 病害虫 : いもち病 (穂いもち)
- 3 対象地域 : 県内全域
- 4 発生量 : やや多い (平坦部は平年並)

予報の根拠

- (1) 7月4～5半旬の調査で、県全域で葉いもちの発生が認められている。
特に、山間・山沿い地域において上位葉での発生ほ場割合が高く、一部ではズリコミ症状のほ場も認められる。
平坦部の葉いもちの発生量は平年並であるが、無防除ほ場など一部では、上位葉での発生が認められる (図1、2)。
- (2) 天候予報 (7月24日発表1か月予報) によると、向こう1か月は平年より気温が低く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、出穂時期に穂いもち感染に好適な条件が続くと予想される。
- (3) BLASTAMによると、7月以降は約7～10日間隔で周期的に感染好適条件が出現しており、特に、7月19日以降は、感染好適条件が頻発している (表1)。
- (4) BLASTLによる葉いもちシミュレーションによると、7月6半旬から8月1半旬にかけて、上位葉に病斑数が急増すると予想される (図3)。このため、上位葉での葉いもち多発による穂いもちの発生が懸念される。

防除対策

- (1) ほ場内をよく観察し、いもち病病斑の早期発見に努める。現在確認されている病斑は、下位葉に多く分布しているため、育苗箱施用剤、水面施用剤の施用の有無に関わらず、ほ場内に入り、株をかき分けて病斑の有無を確認する。
- (2) 病斑が確認されたほ場では、直ちに散布剤 (表2) による防除を実施し、上位葉への進展を防ぐ。
- (3) 出穂初期における穂への感染が大きな被害となるので、穂いもちに対して散布剤を施用する場合、穂ばらみ末期とその5～7日後の2回散布を基本に防除を行う。
なお、低温の影響で穂揃いが悪い場合には、さらに5～7日後に追加防除を行う。
- (4) 穂いもち対象に水面施用剤 (表3) を施用する場合は、湛水状態で散布し、その後7日程度止水する。
- (5) 降雨が続くような場合は、雨の合間をみて薬剤防除を行う。
- (6) 穂肥を実施した場合は、上位葉への感染リスクが高まるので、薬剤防除も併せて実施する。

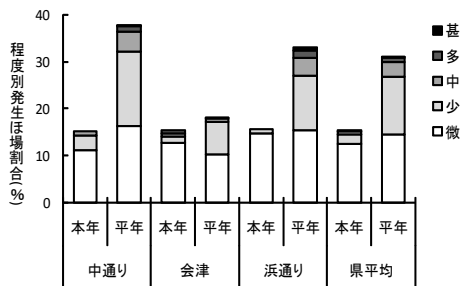


図1 葉いもちの発生ほ場割合
(7月下旬、微発生程度以上)

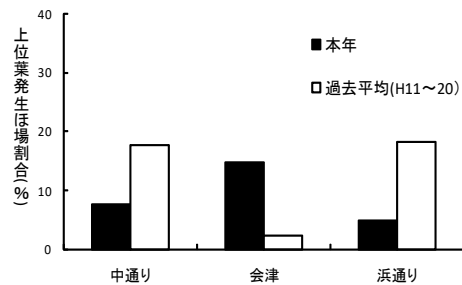


図2 山間・山沿い地域の上位葉発病状況
(7月下旬)

表1 B L A S T A Mによる感染好適条件の出現状況 (JPP-NET版)

アメダス 地点 月日	中通り										会津							浜通り							
	茂庭	梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	白河	東白川	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島	相馬	飯館	浪江	川内	広野	山田
7月1日	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	●	●	-	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	●	-	●	●	△	-	○	●	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	△	●	△	●	●
7月3日	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	-	△	-	●	-	-	-	△	△	-	-	-	△	●	-	△	○	△	△	-	△	○	△	●	●
7月5日	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	●	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	△
7月6日	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	○	-	○	-	○	-	△	-
7月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	○	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	-	-	-	-	-	※	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	※	-	●	-	-	-	-
7月9日	●	-	-	●	●	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-
7月10日	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	-	-	-	-	-	-	△	-	△	-	-	-	●	●	●	●	-	-	△	△	-	-	●	-	-
7月18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7月19日	●	-	-	-	●	-	●	●	●	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	△	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7月21日	-	-	-	-	●	-	△	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
7月22日	●	●	●	●	-	●	●	-	●	-	●	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	●	●	●
7月23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●
7月24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●
7月25日	-	●	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	●	-	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●
7月26日	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月27日	-	●	●	●	-	●	●	-	●	-	●	-	-	-	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●

●：感染好適条件、○：準感染好適条件、△：感染可能条件、-：感染好適条件を満たしていない、※：判定不能



図3 B L A S T L (JPP-NET WEB版) によるシミュレーション結果 (アメダス地点：喜多方)
(演算条件は初感染日を7/10、予測開始日を7/27とし、他はJPP-NET WEB版BLASTLの初期設定条件とした。
予測日以降の気象データはサンプル気象データによる)

表2 いもち病の散布剤

剤型	薬剤名	有効成分数	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用量	使用回数の制限
粉剤	カスミン粉剤DL	1	収穫14日前まで	3~4kg	5回以内
	カスラブサイド粉剤DL	2	収穫14日前まで	3~4kg	5回以内 (但し穂ばらみ期以降は4回以内)
	クタジンP粉剤30DL	1	葉いもちに対しては初発7日前~初発時、穂いもちに対しては、出穂7~20日前	3~4kg	3回以内
	ノンプラス粉剤DL	2	収穫21日前まで	3~4kg	2回以内
	ヒノザン粉剤25DL	1	収穫21日前まで	3~4kg	3回以内
	ビーム粉剤DL	1	収穫7日前まで	3~4kg	3回以内
	ブラシン粉剤DL	2	収穫21日前まで	3~4kg	2回以内
液剤、 水和剤、 乳剤、 フロアブル剤	ラブサイド粉剤DL	1	収穫7日前まで	3~4kg	6回以内 (穂ばらみ期以降は4回以内)
	アミスターエイト	1	収穫14日前まで	1,000~1,500倍 (散布液量100~200L/10a)	3回以内
	カスミン液剤	1	収穫14日前まで	1,000倍	5回以内 (但し、200倍希釈散布は3回以内)
	カスラブサイド水和剤	2	収穫14日前まで	1,000倍	5回以内 (但し、穂ばらみ期以降は4回以内)
	ノンプラスフロアブル	2	収穫21日前まで	1,000倍	2回以内
	ヒノザン乳剤30	1	収穫21日前まで	1,000倍	3回以内
	ビームゾル	1	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内
	フジワン乳剤	1	収穫45日前まで	1,000倍	1回
	ブラシンフロアブル	2	収穫21日前まで	1,000倍	2回以内
ブラシン水和剤	2	収穫30日前まで	1,000倍	2回以内	
ラブサイドフロアブル	1	収穫7日前まで	1,000~1,500倍	6回以内 (穂ばらみ期以降は4回以内)	

注) 使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認してください。

表3 穂いもちに対する水面施用剤

薬剤名	有効成分数	使用時期	使用方法	10a当たり使用量	使用回数の制限
フジワン粒剤	1	出穂30~10日前 (収穫30日前まで)	湛水散布	3~5kg	1回
イモチミン粒剤	2	出穂28~7日前 (収穫45日前まで)	散布	3kg	1回
嵐粒剤	1	出穂25~5日前 (収穫21日前まで)	湛水散布	2~3kg	1回
フジトップ粒剤	2	出穂21日前 (収穫30日前まで)	湛水散布	3~4kg	1回
イモチエース粒剤	1	出穂20~10日前 (収穫35日前まで)	散布	3kg	1回
イモチエース1キロ粒剤10	1	出穂20~10日前 (収穫35日前まで)	散布	1~1.2kg	1回
コラトップ粒剤5	1	出穂15~10日前	散布	3~4kg	2回以内
コラトップ1キロ粒剤12	1	出穂15~10日前	散布	1~1.5kg	2回以内
コラトップジャンボ	1	出穂15~10日前	水田に小包装 (パック)のま ま投げ入れる	小包装(パック)10~13個 (500~650g)	2回以内
クタジンP粒剤	1	出穂10日前	散布	3~5kg	2回以内

注) 使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認してください。

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課 (病虫害防除所) までご連絡ください。Tel 024-958-1709 Fax:024-958-1727
- 本情報は、福島県病虫害防除所ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html> でもご覧になれます。